# 枚田だ



第 252 号

みんなで地

で地域農業の 将来を考えよう 行われた。 で地域農業の

で表題につ

では、直接支払制 に (村雲代表) に (村雲代表) に (村雲代表)

よる農業後継者不足に対応するため、話し合いにより作成した「地域内がら受け手を幅広く確保しつつ、農地がら受け手を幅広とで色分け)とは、一様でとは、一様ででは、大がしやすい。今後農業をした地域計画を可視化(三色で色分け)となる。等々の説明があった。で、大なる。等々の説明があった。な営農環境に変えていくことができる。今月の権助や支援を受けやする。今月の指している人がしやすい。今後農業をしたができる。今月の諸ので進むべき農業の姿を定めることができる。今月の諸時で進むべき農業の姿を定めることができる。今月の場所があった。「集落戦略」の表に示された項目▽はれた各耕作者の「農用地の内訳」、「集落戦略」の表に示された項目▽はなお、この会合は集落協定に参加している各地域でも行われている。で千枚田の保存とした。なお、この会合は集落協定に参加している各地域でも行われている。なお、この会合は集落協定に参加している各地域でも行われている。

かないでもない。 一次のは如何なものか、疑念が でいる矢先、十年後の展望を○印 一大枚田の保存継承に精一杯尽く 一大枚田の保存継承に精一杯尽く ただ、案ずることは、高齢化集団 ただ、案ずることは、高齢化集団 でいる各地域でも行われている。

然を行う。 や用を示し

た地

配化や人口減地図(目標)

減少 図









### 田んぼに侵入、踏み荒らされた。対 ののニホンジカは跳躍力に優れ、ニ がの高さも飛び越してしまうことと、生活道路を遮断できないからを、生活道路を遮断できないが移しい。サルは田んぼのアント花火や爆竹で威嚇に出掛けると、多い時には七~八頭、もっとを多くに出くわすことが日常だ。困ったことに今年はサルの軍団がホウライジュリの開花時期から夜、ロライジュリの開花時期からで、因ったことに今年はサルの軍団がホウライジュリの開花時期からの出没が移しい。サルは田んぼの泥が嫌いなのか、稲株を手で持ち、株元を踏み付け、稲穂をすっこき、食べる知りであるが、百姓が精魂かけて育るために作っている訳ではない。その所作は日んぼの混び嫌いの質には一枚田の上・中・下の三かいののには、路のでは、路のでは、路のでは、路のでは、路のでは、路のできないが、石井を設置したもりでは、路のでは、路のできないが、路のできない。 がの高さも飛び壊して / \*\*・ がとして獣害防止柵を設置した ののニホンジカは跳躍力に優れ、 ののニホンジカがほぼ全 昨年はニホンジカがほぼ全 がはに侵入、踏み荒らされた 止柵を設置したもられた。対がはぼ全部のでは、 とれた。対がはば全部の

イ嚇 | に二現所 ノ音ン設基在に しますが地域の 皆さんにはご迷惑を ご理解くださ







## 環境保全

時半の時間帯に四公 -ムは九月十二日、1 -ム㈱新城工場生物 **全活動** 谷午物 様 駆枚時性

半く三時半の時間帯に四谷の千枚田区域内で特定外来植物の伐根・駆合性保全チーム(十五名)と豊橋オートバックス株式会社クライム(二名)、新城市の若手職員の方々(二名)、新城市の若手職員の方々(二名)が中間の駐車場に集結。保存会の会長からは横浜ゴム㈱新は工場と「棚田保全活動の食料システカ戦略」と「棚田保全活動の食料システカ戦略」と「棚田保全活動の食料システカ戦略」と「棚田保全活動の食料システカ戦略」と「棚田保全活動の食料システカがで「モリアオガエル」の産卵が確別された。これも、皆さんの千枚田郡された。これも、皆さんの千枚田郡さど、それぞれの挨拶を頂いただいただいたがら「それぞれの挨拶を頂いただいたがらアメリカセンダンステカなど、それぞれの挨拶を頂いただいたで、それぞれの挨拶を頂いただいたがらアメリカセンダンフなどの外来植物の抜根作業を行った。

ームリーダーは喜んでいた。 一名リーダーは喜んでいた。 一名リーダーは喜んでいた。 一名リーダーは喜んでいた。 一名リーダーは喜んでいた。

発 行 令 掛山麓千枚田保存会 和 六年九月十五 日